

<b>教職概論</b>		<b>講義</b>	<b>教授 松下 晋 教授 平沢 信康</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>		11520102 12520102 13520102

### 1. 授業のねらい・概要

現代社会における教職の重要性の意識および期待の高まりに鑑み、教職の社会的意義と職務内容および教師の役割を理解し、かつ服務上の義務などについて法規を認識しつつ、教職への使命感を涵養することをねらいとする。

受講者が教職をめぐる諸状況について多角的に把握し、進路選択を考える基盤となる各種情報に接して学生自らが適性を判断できることをめざす。

さらに我が国における今日の学校教育をめぐる諸状況を背景として、教職という専門職の在り方を省察しつつ教師のあるべき姿を探求し、自ら理想像を描き、これからの時代に必要とされる教員の資質能力に関して熟考する。

### 2. 授業の進め方

基本的には、講義要旨（レジュメ）を配布し、その教材資料をもとに講義形式で進める。部分的に、PowerPoint を活用して画像資料等をスクリーン上に紹介して補うこともある。

また適宜、受講生が所持するスマホを活用し、語義、都道府県教育委員会の掲示情報の内容や各種統計データあるいは画像資料などを検索して理解を深める。そうした「調べ学習」の作業を挿入することで、限定的だがアクティブ・ラーニングの効果を図る。

### 3. 授業計画

<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 教職と教師について（平沢）</li> <li>2. 教員の養成について ― その歴史と現状（平沢）</li> <li>3. 教育職員免許状について（松下）</li> <li>4. 教員の信用失墜行為と進退・処分（松下）</li> <li>5. 教員の採用（松下）</li> <li>6. 任命と服務義務および条件附採用（松下）</li> <li>7. 多様な研修制度 ― 法規と種類（松下）</li> <li>8. 教員の身分と職制（松下）</li> <li>9. 教職員の給与負担制度（松下）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10. 教職のストレスと教師のメンタルヘルス（平沢）</li> <li>11. 教師の職能団体と教職員組合の歴史（平沢）</li> <li>12. 「不適格教員」―〈問題教師〉の種類と対策（松下）</li> <li>13. 教員の人事評価制度と人事管理（松下）</li> <li>14. 「チーム学校」運営への自覚―職務分掌・同僚との協力および内外の専門家との連携・対応（松下）</li> <li>15. 教職に求められる望ましい資質能力―理想の教師像を求めて教師の力量形成を考える（平沢）</li> </ul>
--	---

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義に関係する書籍について、参考文献をはじめ大学図書館の蔵書などにあたって予習復習（各1時間）する。また配布プリント等については、その内容を次週までに復習しておくこと。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎授業後に「授業感想メモ」を提出させ、次時にはその中から優秀なものを紹介しながら、前時で押さえてもらいたかった内容等について再確認する。

学期末に実施するレポートについては、レポート課題解決に必要なキーワードや授業資料等について提示し、学習の振り返りができるようにする。

### 6. 授業における学修の到達目標

1. 教職の歴史的・制度的変遷を理解する。
2. 近年の社会状況と教育界の動向をふまえて、現代の教員に求められる役割と困難を理解する。
3. 教職に関する法規を学び、教員の職務内容や教員に課せられる服務上および身分上の義務を理解する。
4. 我が国における今日の社会状況を背景として、学校の担う役割が拡大かつ多様化するなかで、教員が学校内外の専門家たちと連携し、役割分担して対応する必要性についても理解を深める。

## 7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験と平常点を総合して評価する。評点の配分割合については、期末試験の成績（60%）と平常点（40%）を基準に評価する。

平常点については、授業で提示された課題に対する取組み姿勢や解決方法及び内容等について評価する。また、授業終了時に提出してもらう「授業感想メモ」（質問を含む）の内容及び質問の鋭さ等により、講義に取り組む積極性、関心・意欲および理解の程度を推し量って評価する。

## 8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、自作プリントを配布する。

参考文献：関川悦雄・羽田積男『現代教職論』（弘文堂、平成28年）

佐藤晴雄『教職概論』（学陽書房、平成30年）

## 9. 受講上の留意事項

本科目は教職科目である。教職課程の第一歩の科目であるので、教員免許取得を目指す学生は履修すること。

受講中、テレビニュースや新聞雑誌などで取り上げられる教職に関する時事的な情報に敏感になってほしい。教職に関するニュース報道は積極的に視聴すること。また教職受験雑誌にある当該情報にも目を通すことが望ましい。

また、教員免許取得を目指すにあたっては、学部2年生終了時に、次の二つの「教育実習に関する学内規定」を満たしていること。

- ① GPA(Grade Point Average)値の総合が、2.0以上であること。
- ② 次の両方を満たしていること。
  - (1) 教育の基礎的理解に関する科目のGPAが、2.0以上であること。
  - (2) 教科及び教科の指導法に関する科目のGPAが、2.3以上であること。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

教育基礎論		講義	准教授 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	11520101 12520101 13520101

### 1. 授業のねらい・概要

われわれは教育を通じて大人になり、教育という関係性のなかで日々他者とかかわっている。誰もが日常にかかわり経験的に知っているこうした広い意味での「教育」を、批判的に捉え直す試みが教育「学」だとするならば、教育学を学ぶことにはわれわれ自身のアイデンティティを問い直す作業が必然的に含まれると言える。この授業では、われわれが素朴に抱く子ども観や学校観の歴史的・思想的起源を探ることによって、自らの暗黙的な教育観を反省的に対象化・言語化することを目指す。

### 2. 授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

### 3. 授業計画

1. 講義の概要	9. 教育思想史を学ぶ③：ヘルバルトとデューイ
2. 「教育」の条件①：ヘレン・ケラーの事例から	10. 日本の教育の歴史①：近代教育制度の始まりから大正新教育運動
3. 「教育」の条件②：野生児の事例から	11. 日本の教育の歴史②：大正から戦後の教育への連続と断絶
4. 教育における「発達」という視点	12. 近代教育批判①：近代的主体の形成と学校教育
5. 子ども観の思想史①：子ども観の社会史	13. 近代教育批判②：教育空間の可視化と学校教育
6. 子ども観の思想史②：現代の子ども観	14. 新しい教育を考えるために①：学校接続と生成としての教育
7. 教育思想史を学ぶ①：ロックの積極教育とルソーの消極教育	15. 新しい教育を考えるために②：媒介者としての教師
8. 教育思想史を学ぶ②：消極教育の受容と展開	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料および参考文献の読解に30分程度、論述課題にむけての準備に1時間程度、あわせて1時間30分以上の準備学修を要する。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

### 6. 授業における学修の到達目標

他の諸学問とは異なる教育学的な思考様式の基礎を身につけ、教育という視座から様々な事象を眺めることの重要性の理解をテーマとし、下記の目標を掲げる。

- ・教育の原理に関する基礎概念や理論を理解する。
- ・教育思想の変遷や学校教育の歴史について理解する。
- ・現代の教育問題について、理論や歴史をふまえた考察を行うことができる。

### 7. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

### 8. テキスト・参考文献

自作の講義資料を配布する。参考文献としては木村元ほか（2009年）『教育学をつかむ』有斐閣。

### 9. 受講上の留意事項

本講義では他の教職関連科目を受講する際の基礎となる内容を扱うため、原則として1年次に履修すること。明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く望む学生の受講を希望する。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。